2 地域とともにある学校づくり

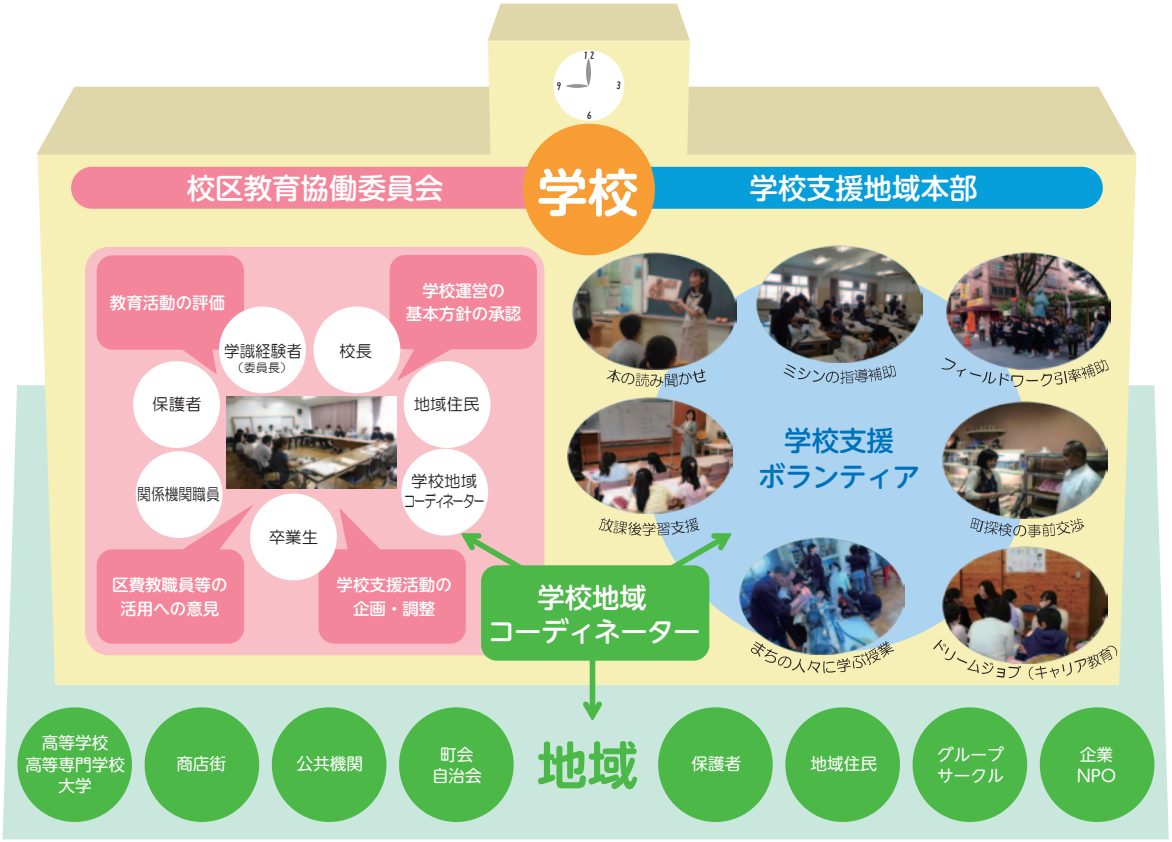
品川コミュニティ・スクール

本区では全ての学校を品川コミュニティ・スクールに指定しています。品川コミュニティ・スクールでは、保護者、地域住民、学識経験者等が学校運営に積極的に参画することで、学校と地域住民が一体となって、継続性を保ちながら、教育活動の改善や児童・生徒の健全育成に取り組んでいます。

また、地域全体で学校教育を支援することで、学校の教育活動の充実を目指すとともに、地域の人材の有効活用や地域の教育力の活性化を図っています。

設置する二つの組織

学校運営に参画する**「校区教育協働委員会」**と実際に学校支援を行う**「学校支援地域本部」**の二つの組織を同時に設置します。また、それぞれの組織の運営に関わり、学校と地域をつなぐ、**学校地域コーディネーター**を各学校に配置します。



学校地域コーディネーターは、各学校で行われている教育活動を一層充実させるために、学校支援に向けたコーディネートを行う区の非常勤職員です。学校が必要としている支援について把握し、それに応じて、学校支援ボランティアの中から、適したボランティアを派遣します。また、企業・ＮＰＯ・大学等からの学校支援のコーディネートも行います。

さらに、地域の行事や地域での教育活動などについて、地域の要望を学校に伝えるなどの調整をします。

期待される効果

1. 組織的・継続的な体制の構築 ＝ **持続性**
2. 当事者意識・役割分担 ＝ **社会総掛かり**
3. 目標・ビジョンを共有した**「協働」**活動

四つの魅力

子どもにとっての魅力

- 子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

教職員にとっての魅力

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現します。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子どもと向き合う時間が確保できます。

保護者にとっての魅力

- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

地域の人々にとっての魅力

- 経験を生かすことで生きがいや、やりがいにつながります。
- 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなります。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の防犯・防災体制等が構築できます。

品川地域未来塾

放課後や夏休みなどの長期休業期間中を利用して行う学習教室を全校で実施しています。

補習や定期考査対策、英検合格講座など、地域の方や大学生等が講師となり子どもたちの勉強を見ています。

3 9年間の一貫したカリキュラム

品川区立学校教育要領

義務教育９年間を通して、より充実した学びを得られるよう、各教科の系統性を明確に示した、「品川区立学校教育要領」を作成しています。また、１年生からの「英語科」や、特別教科である「市民科」など、品川独自のカリキュラムを定めています。

品川教育の方向性を踏まえた重点

「品川区立学校教育要領」では、重点として次の４点を示しています。

- 「知・徳・体」をバランスよく兼ね備えること
- 困難に負けず生き抜く力をもつこと
- 地域に愛着をもち、地域の一員として社会に貢献すること
- 伝統と文化を尊重するとともに国際的な視野をもつこと

↓

次代を力強く生きる児童・生徒の育成

品川独自のカリキュラム

英語科

グローバル社会を生きる子どもたちに「使える英語」の習得を目指して、１年生より「英語科」の授業を行っています。

→ p.7-8

市民科

「特別の教科 道徳」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」を統合した教科です。社会の一員として必要な資質と能力を育てます。

→ p.9-10

品川教育の取組

各教科のカリキュラムに一貫性をもたせるだけではなく、今日的な教育課題への取組の充実を図るとともに、その成果を検証する学力定着度調査や児童・生徒、保護者アンケート、品川区固有教員の任用などの取組も行っています。

オリンピック・パラリンピック教育

知・徳・体の調和のとれた幼児・児童・生徒の育成を目指し、年間 35 時間程度のオリンピック・パラリンピック学習を行っています。

→ p.11–12

SHINAGAWA アクティブライフプロジェクト（体力向上）

児童・生徒が運動の楽しさを味わい、様々な動きを身に付けながら体力を向上させることをねらいとした取組を行っています。

→ p.13

充実した ICT 環境

各教室には電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタと書画カメラを配備し、学習活動の充実を図っています。また、パソコン室のノート型パソコンをタブレット型端末に入れ替え、多様な学習形態に対応できるようにしています。

→ p.14

学力定着度調査の実施

2 年生以上の各学年では、毎年 4 月に前年度までに学んだ内容の定着度を測る調査を実施しています。各学校では一人一人の経年変化を追うことにより、個々の学力の伸びや課題を把握するとともに、授業改善に役立てています。

児童・生徒、保護者アンケート

児童・生徒対象に学校や家での勉強の様子や生活についてのアンケート調査を行うことで集団の状況を把握し、教育活動の改善に役立てています。

また、保護者対象に、家庭での様子、学校や品川区の教育施策に関するアンケートを行い、品川教育のより一層の充実を図っています。

品川区固有教員の任用

他地区に異動することなく、将来にわたり品川の教育の中核を担う人材を確保・育成することを目的として、平成 21 年度から区独自に教員を任用しています。

区固有教員は、本区の一貫教育や区の独自教科「市民科」の推進、学校と地域・保護者との信頼関係の継続に力を発揮しています。

品川英語力向上推進プラン

品川区では、平成 18 年度より１年生から６年生を対象に「英語科」を実施するとともに、独自のカリキュラムに基づいた９年間の系統的な英語教育を展開しています。

１・２年生

学級担任と ALT による授業（年間 35 時間）

学級担任が ALT(外国人英語講師) と協力して授業を行っています。児童は ALT の話すネイティブの英語を聞くことで、英語の音声に慣れ親んでいきます。

３～６年生

学級担任と JTE による授業

（３・４年生：年間 35 時間）
（５・６年生：年間 50 時間）

学級担任と JTE(英語専科指導員) がティームティーチングで授業を行っています。児童は文部科学省作成教材『Let’s Try ！』や『We Can ！』を学ぶとともに、系統的なリタラシー学習や物語を題材にした学習に取り組んでいます。

ジュニア・イングリッシュキャンプ（4 年生）

４年生までの「英語に親しむ」学習のまとめと５年生以降の「英語を使う」学習への意識付けを目指して、ジュニア・イングリッシュキャンプを行っています。

各学校は、会場として自校または「TOKYO GLOBAL GATEWAY（TGG)」を選ぶことができます。どちらの会場においても、すべて英語による体験活動を行います。

７～９年生

教科担任と ALT による授業

全ての学校で、教科担任がオールイングリッシュを基本とする少人数指導を実施しています。また、年間 10 時間、ALT(外国人英語講師) による授業を行うことで、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションを図ります。

品川オンラインレッスン（６校）

インターネットを使って、海外の講師からマンツーマンの指導を受けます。授業で身に付けた英語を活用する学習です。
（平成 30 年度は、大崎中学校、浜川中学校、冨士見台中学校、八潮学園、荏原平塚学園、豊葉の杜学園で、年間２５分×１０回実施）

４技能テストの実施

９年間の英語学習の成果を総合的に判断するため、９年生の７月に４技能（聞く・読む・話す・書く）のテストを実施します。なお、「話す」テストは、採点の誤差が出ないよう、タブレット PC を使って行います。

希望生徒を対象とした取組

品川区グローバル人材育成塾

７年生以上の希望者を対象に、放課後、ALT による少人数の英会話レッスンを行っています。コミュニケーション重視の授業です。
(９月に開講し、翌年７月まで年間 25 回実施)

イングリッシュキャンプ

品川区グローバル人材育成塾で学んだ英語力を生かし、福島県のブリティッシュヒルズで英語漬けの2泊3日を過ごします。このキャンプでは、テーブルマナーやアフタヌーンティーなど英国の文化にも触れることができます。